

# 勝っておごらず、負けてくさらず

高知県

野市町スポーツ少年団剣道部

小学6年 櫻木夕姫

私は、保育園の年長組のときに剣道を習い始めました。四つ上の姉が先に剣道を習い始めていたことがきっかけとなり現在まで続けています。

剣道を始めて何年間は、試合に出てあまりチームのために勝つことができず、そのたびに悔しい思いをしてきました。

けれど、ある試合が、私に多くのことを教えてくれました。それは、四年生の時の「高知県道場少年剣道大会」でした。準決勝戦で相手チームに一本リードされた状態で大将の私に順番が回ってきました。私が勝たないと次の決勝戦に進めませんでした。私は、大将としての責任を感じ、ドキドキしながら試合場に入りました。ですが、いざ試合場に入り相手を前にすると、私の頭の中には、先生にいつも言われている言葉しかありませんでした。「中心を攻めて面へ行け。」、「中心を攻めて面へ行へ。」、私は、静かにそのチャンスを待ちました。そして、私は先生の教え通り相手の面に向かって跳び、一本を決めることができました。その時の私は、無意識に体が動いたような感じがしました。そして次の決勝戦では、準決勝で勝つことができた流れのまま、チームのみんなが勝ちを積み重ね、優勝することができました。その時の団体優勝は、私にとっては初めての優勝でした。閉会式で表彰状をもらい、記念写真をみんなで一緒に撮りました。チームのみんなもみんなの家族も、うれしそうなニコニコ顔でした。その時のことは、今でもハッキリと心に残っています。そして、優勝は、たくさんの人達の支えがあったからこそできたことだと思います。それと同時に、優勝できたことで、身が引き締まるような思いになり、また、明日からのけい古を頑張ろうと思いました。この時、剣道を続けていて本当に良かったと思いました。

私は、六年生になって主将に選ばれました。

六年生になった今、新型コロナウイルス感染症のために、目標にしていた大会が次々と中止になりました。けい古ができない期間もあり、この先どうなるだろうと不安になったこともありました。そんな時、いつもあの大会のことを思い出します。

そして最近になってつくづく考えることがあります。それは、指導してくださる先生方のことや支え応援してくれている家族に対する感謝の気持ちです。四年生の頃よりもっともっと考えられるようになりました。先生方の教えのおかげで試合に出てよい成績を収めることができたり、調子が悪いときでも、アドバイスのおかげで立ち直ることができたりしています。時には厳しく、時には優しく私たちの剣道を見守ってくれています。また、家族には、いろいろな場面で迷惑もかけていますが、たくさん助けてもらっています。試合の時はもちろん、普通のけい古の時にも、暑い日でも、寒い日でも、朝早く集合の日でも、一緒にいてくれて応援をしてくれています。そのことを考えると自分も剣道を頑張っていきたいと思います。毎回のけい古は、先生から教えられることを一つ一つこなし、積み重ねていくことが大事だと思います。私はいつも大会に向けて自分なりに目標を立ててやっています。特に先生に直されたところは、直すように努力してきました。でも、一つできたと思ったら、次の注意があり、と先生からの課題は、次から次へと続きます。でも、その積み重ねが大きな成果として出ているように思いました。

先生が作ってくださる「少剣だより」の中に、「勝っておごらず、負けてくさらず」という教えがあります。これは、「勝った時は誇ったりせず謙虚にし、負けた時は落ちこまずに心のバネにして頑張る」という意味です。わたしは、その言葉の意味を大切にしながら、剣道を頑張って続けていきたいと思います。